

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 本城 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

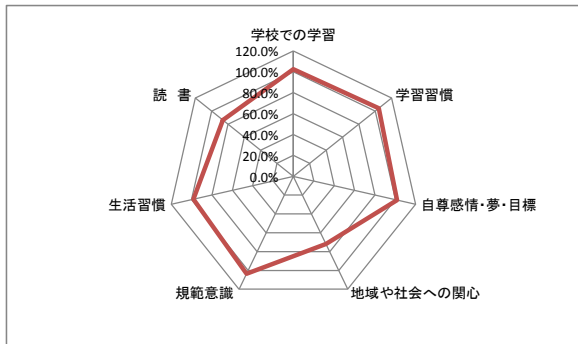
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	目的に応じて、質問を工夫したり話しての意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができます。「書くこと」に課題が見られます。また、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことが苦手です。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	インタビューの場面における、質問の工夫として適切なものを選択する問題	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができます。面積の求め方を説明したり、資料の特徴や傾向を関連付けて判断し、その理由を書いたりすることに課題があります。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	長方形を直線で切ったときにできる図形の中から台形を選ぶ問題	
	努力が必要な問題	提示された式から、面積をどのように求めているのか、数や演算の表す内容に着目して書く問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情が高まってきており、夢や目標をもって活動しようとしています。 ・就寝時刻が遅い児童の割合が全国平均に比べると高いです。 ・地域の行事やボランティアに積極的に参加する児童が少ないです。 ・家庭学習の習慣が身に付いている児童が増えていますが、自主学習に取り組む児童は少ないです。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 子どもたちが「楽しい」「やってみたい」と感じる授業づくりを行います。
- ・学習の導入で、児童にしっかりと見通しをもたせた上で授業を進めます。
- ・学習の「めあて」と「まとめ」から、授業の流れが分かるようにします。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 本城小学校「生活のきまり」を全家庭に配布し、全職員共通理解の下、指導を徹底します。
- ・家庭や地域と密に連絡を取り合い、保護者との共通理解を図ります。
- ・学校だより、学級通信、学級懇談会等を通じて家庭学習や生活習慣の大切さを訴えるとともに、継続的に啓発を行います。